

2005年7月19日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/
広報部 03-3664-5697

機能水関連市場調査を実施

- 機能水生成装置全体市場は、2007年に1,440億円規模へ(対04年比106%) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、家庭用として健康飲料用・調理用途、業務用として消毒・殺菌用途、更に産業用として工業洗浄から環境浄化用途と、多岐にわたって利用され、注目されている機能水市場についての調査を行った。その結果を調査報告書「2005 機能水関連市場の現状分析と将来展望」にまとめた。

< 調査結果の概要 >

1. 機能水生成装置全体市場(14装置)

用途	2004年度	2007年度予測	07/04
産業用	685億円	735億円	107%
業務用	176億円	185億円	105%
家庭用	497億円	522億円	105%
合計	1,358億円	1,442億円	106%

産業用途では、工業洗浄に用いられる超純水製造装置が市場の大部分を占めている。超純水製造装置市場は、液晶・半導体の設備投資に大きく影響を受けるため、流動的ではあるが現状では明るい見通しとなっている。また、家庭用・業務用から派生してきたアルカリイオン整水器は、今後の市場拡大が期待される。

業務用途は、産業用と同じく超純水製造装置の市場が大きく、研究所や民間の研究施設での採用を中心に市場を拡大している。続いて、食品分野をはじめ医療分野、農業分野まで幅広い用途を持つ強酸性水生成装置が市場を形成している。近年では、食品分野において、同じ電解水である電解次亜水生成装置の需要が伸びている。一時はブームであったアルカリイオン整水器は、市場の縮小が続いていたが、一部メーカーがスーパーの自動販売機向けに供給を行うなど、販売チャネルの多様化などの効果もあり、徐々にではあるが回復に向かっている。

家庭用途は、微減傾向ではあるが、アルカリイオン整水器が圧倒的な割合となっている。続く磁気処理水装置は、メーカーが集約されてきており市場は回復に向かうと見られる。

2. 機能水全体市場(対象：ミネラル水、アルカリイオン水、海洋深層水、酸素水、電子水、超純水)

2004年度市場 1,357億円 2007年度予測 1,441億円(対04年比 106%)

超純水以外は、基本的には飲用を目的とした水であり、ペットボトルでの販売が主流になっている。超純水を除く対象水は、基本的にはミネラルウォーターの扱いとなるが、今回の調査ではこれらを細分化している。

最も大きい市場を有しているのは、ミネラル水で、次いでアルカリイオン水が続いている。ミネラル水もアルカリイオン水も今後はペットボトルでの販売の他、量り売りなどの新たな販売方法、新規参入企業の増加などで市場は伸びていくとみられる。海洋深層水は、高価なことやブームが一段落したことから市場は落ち着いている。また、酸素水、電子水は現状では規模は小さいものの、高付加価値で機能性の高い飲料水であることから、今後ブームの可能性もある。

一方、工業用洗浄で用いられる超純水は現在水の従量課金制を用いるケースで増加している。これは装置を無償で設置する代わりに、使用した水に対して課金するものであり、今後こういったケースが他の装置においても見られる可能性は高い。

3. 注目装置市場

電解次亜水生成装置

2004年度市場 27億円 2007年度市場予測 30億円(対04年比 111%)

食品添加物に適合すると公的に認められた事から、食品工場を中心に導入され、市場が形成されてきた。また一方でプールや浴場といった施設でも導入がされており、市場は拡大傾向にある。

食品工場においては、食材の洗浄から室内の殺菌、除菌まで可能になるため、衛生管理全般を徹底できることと、

ランニングコストが安価であることなどから導入が進められている。各社では今後、小型機種を開発し、スーパーのバックヤード、医療・老健関係の施設の厨房などに導入を進める動きも見られる。

超純水製造装置

2004年度市場 540億円 2007年度市場予測 589億円(対04年比 109%)

純水・超純水製造装置は、産業用と業務用に大別できるが、産業用についてはその8割程度が電子産業用としての採用となっている。ここ数年では大量の超純水を使用する液晶工場向け、及び韓国、中国、台湾といった東アジアや東南アジアにおけるエレクトロニクス分野を中心とした需要増が挙げられる。また業務用についても、大学・研究所のラボ用や、各種メーカーの評価・開発施設向けを中心とした設備導入が進んでいる。文部科学省の年15%程度の成長を見込んだ科学技術予算の増額により、基礎研究投資のための補助金適用もあり、今後も業務用としての装置販売は増加傾向で推移すると見込まれている。

紫外線水殺菌装置

2004年度市場 44億円 2007年度市場予測 45億円(対04年比 102%)

市場の歴史は古く、紫外線による殺菌装置自体は30年以上前から使用されている。その用途は年々広がりを見せており、今では主要な産業分野においてはほぼ全ての業界で採用されている技術である。そのため、需要の中心は産業用途となっており、殺菌用途、消毒用途などで使用されている。飛躍的な伸びは期待できないが、安定感が期待できる市場となっている。一方業務用ではプール・浴場の循環水の殺菌・消毒や汲み上げた井戸水の殺菌などに用いられており、相次ぐレジオネラ菌問題により技術的な対策が求められてきたことも手伝って、注目度は高まっている。特に、過剰な塩素投入を抑制できる点や、衛生管理に有効な点が評価されている。

4. 注目機能水市場

アルカリイオン水

2004年度市場 112億円 2007年度市場予測 151億円(対04年比 135%)

飲料メーカーのキリンビバレッジが販売している「アルカリイオン水」が圧倒的な流通量となっている。またアルカリイオン整水器メーカーもアルカリイオン水のボトル売りを行っており、装置メーカーの製品バリエーションの一つとして展開中である。今後は、アルカリイオン水の還元力や抗酸化力により体にやさしい水として、他のミネラルウォーターに対して優位性のある点を、装置・水の両面の相乗効果で認識させる必要がある。

<調査対象>

対象	品目
機能水生成装置	強酸性水生成装置、電解次亜水生成装置、アルカリイオン整水器、高周波処理装置、高周波還元水装置、ミネラル還元整水器、超音波洗浄装置、磁気処理水装置、セラミック水処理装置、紫外線水殺菌装置、オゾン水製造装置、脱気装置、超純水(純水)製造装置、超(亜)臨界水酸化処理装置
その他機能水生成装置	無機物処理水装置、光触媒処理水製造装置
機能水	ミネラル水、アルカリイオン水、海洋深層水、酸素水、電子水、超純水

<調査方法>

専任調査員による参入企業・業界団体への直接取材を主体とし、関連データを補完材料として調査を実施した。

<調査期間>

2005年5月～6月

以上

資料タイトル:「2005 機能水関連市場の現状分析と将来展望」

体 裁 : A4判 232頁

価 格 : 95,000円(税込み 99,750円)

調査・編集 : 富士経済 大阪マーケティング本部 第二事業部 環境グループ

TEL:06-6228-2020 (代) FAX:06-6228-2030

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>